



クレオ大阪
マスコットキャラクター
ジャンプちゃん

《特集》 「ユースの視点から広がる ジェンダー平等の未来」

【連載まんが】

ジャンプちゃんおしえて！男女共同参画ってなあに？
ep.7「国際ガールズ・デー」

【男女共同参画TOPICS】

女性版骨太の方針2025が決定

大阪市女性活躍リーディングカンパニー
令和6年度市長表彰受賞企業の取組紹介

【女性チャレンジ応援拠点ロールモデル紹介】

チャレンジの先輩に聞く！活動の始め方・続け方のヒント
森本 宮仁子さん(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 代表理事)

【連載コラム】

日本のパパと欧州のパパ

【研究室長コラム】

男女間の賃金格差とL字カーブ

無料セミナー&イベント情報(9月～12月)



特集

Interview

ユースの視点から広がる

ジェンダー平等の未来



令和7(2025)年3月、国連前でCSW派遣メンバーとともに

今、ジェンダー平等や環境問題、教育問題など、社会課題の解決に関心を向けて行動するユース(若い世代)が注目されています。彼らは、より良い未来の実現に向けて、日常生活や意思決定の場において様々な形で行動・発信をしています。ジェンダー平等とリーダーシップをテーマに、活動を広げる東上菜々子(とうじょうななこ)さんにお話を伺いました。

気づきの先に見えてくる課題

— 東上さんは、中高生に向けて、ジェンダーとリーダーシップをテーマとしたワークショップを実施されておられますが、若い方たちはジェンダーについて、どう感じていると思いますか。

「ジェンダー」という言葉自体は若い世代にも浸透していますが、それを「自分事」として関係のある課題だと実感し、具体的な問題意識をもっている若者はそれほど多くないと感じます。学校や家庭、地域、様々な場面にジェンダーバイアス(性別による思い込み)が存在しているにも関わらず、その課題に気づくための「知識」や「機会」、「場」が不足していることが一因だと考えます。ワークショップをしている中で、「それは逆差別ではないの?」といった反応に直面することもあります。女性を対象としたセミナーや、女性リーダー育成といった取組に対して、女性だけを優遇しているように思うのかもしれませんが。ですが、立場や環境によって十分なチャンスを得にくい人たちに対して、経験やスキルを身につける機会をつくることは、社会に貢献できる人を増やすことであり、社会全体をより良くするために必要なことだと思います。ワークショップでは、社会課題を人権やジェンダー視点から理解すること、自分の強みや特徴を理解して自信を持つこと、自分の考えを発信できるようになることを伝えています。

若者の「声」を届ける

— 令和5(2023)年のG7広島サミット首脳会議において、自分たちの課題をサミットの議論に反映させるためのエンゲージメント・グループ、W7^(※1)(Women7) アドバイザーのユース代表としてコミュニケ(政策提言)に関わりましたが、若者の声を届けることの意義についてお聞かせください。

これまで若者の声が、政治や外交などに関する意思決定に十分に反映されていない、という印象をもっていました。機会がないからといって沈黙しては、社会に対して若者の想いは何も伝わらないし、変化も起こせません。社会課題を解決するには、世代やジェンダー、その他のアイデンティティの違いを超えて、一緒に行動することが必要です。若者だからといって社会を動かせないわけではありません。「友達や家族に伝えてみる」「SNSで発信してみる」など、小さな行動と感ずることでも大きな意味を持つことになると思います。

— 国際会議の場で、発言することの難しさを感じることがありましたか。

私が参加した会議では、国籍も年代も様々な方が参加していました。私より年齢がずっと上で、経験豊富な方々が自分の主張を

※1 W7…G7の議論にジェンダー平等と女性の権利に関する課題を反映させることを目的として集まった女性団体・市民社会組織で構成されるグループ



どんどん展開されます。そのため、はじめはその雰囲気圧倒されて、発言のタイミングを掴むことに苦労し、うまく発言することができませんでした。また、日本の現状を伝えるには、その方たちの異なる背景を理解した上で発言しないと、問題の本質は伝わらないということもわかりました。

—そういった場で、声を届けるために何か工夫はされましたか。

自分の経験を踏まえて話すようにしました。それぞれの人の経験・ストーリーは人の心を動かす力があると思っているからです。その先に、どういった変化や行動を求めるのか、私自身もどう行動していきたいのかを具体的に伝えました。またW7の会議では、グループリーダーが話しやすいように年代や経験などを考慮して、少人数の個別会議を設けてくれました。私たちユースメンバーが、自分の考えや経験、視点を安心して話すことができたのは、場を整えていただいたことも大きく影響しています。そうした環境の中で対話を重ね、私たちの意見が政策提言に反映されたことは成果の一つと感じます。

「心はユース」、その先へ

—東上さんはご自身を「ユース」と位置付けていらっしゃいますが、活動を始められてから5年、ユースとして、ご自身の変化や今の立ち位置について、どのようにお考えですか。

ユースの定義は様々で、私が参加したCSW(国連女性の地位委員会)などの定義では24歳まで、地域や団体によっては人口構成を踏まえて30歳や35歳までとしている場合もあります。そのため年齢的には時と場合によってユースになったり、ならなかったりします。若さを理由に意思決定に関わる機会や発言の機会が限られていると感じることも少なくありませんが、年齢や経験に縛られず「社会を変えたい」という想いは、活動を始めた当時から変わっていない

ため、心の中では今もいつでも「私はユースだ」と思っています。一方で、私より若いユースたちと接する中で、自身のふるまい方に変化もありました。自分の経験や想いを発信すると同時に、他のユースが持つ貴重な経験や声に、しっかりと耳を傾け、一緒に考えていくようにもしています。

—ご自身の活動をこれからどのように発展させていきたいですか。

私がめざすのは、色々な背景やアイデンティティに関わらず、誰もが自分の人生に関する決定を、自分自身でできる社会です。このビジョンを実現するために、今は中高生向けのワークショップを継続し、国内外の様々な場で、積極的に声をあげています。具体的なアイデアが固まっているわけではありませんが、今後もこれまでの経験を活かしながら、活動を継続し、さらに発展させていきたいと思っています。

私は誰もがこの世界を担っているリーダーだと思っています。若い人がリーダーシップを発揮していくことは、今、リーダーシップをとっている人の席を奪う、ということではなく、一緒に声をあげて共創することです。若いリーダーたちがやりたいと思うことを応援し、また、これまで歴史を築いてこられた先輩方とも一緒に連携して、思い描く未来を創っていきたいです。



CSWにて、個人の経験から見る日本のジェンダー課題を発表する東上さん



東上 菜々子さん

(日本YWCA※2 国連女性の地位委員会(CSW) 派遣メンバー)

YWCAのボランティア会員として、令和2(2020)年から中高生向けにジェンダーとリーダーシップをテーマとするワークショップを主導。日本のジェンダーに関する課題や自分らしいリーダーシップについて講演やSNSを通して発信する。また、国際的な意思決定の場に参加し、W7では、コミュニケーション作成のワーキンググループに参画。ユースの視点が盛り込まれた提言づくりに貢献する。現在は、高等教育機関におけるダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンを学ぶため、アメリカの大学院に留学中。

※2 YWCA…Young Women's Christian Association.

女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会をめざすNGO。





ジャンプちゃん おしえて!

ep.7

国際ガールズ・デー

男^{だんじよ}女^{めいよ}共同^{きょうどう}参画^{さんかく} ってなに?



クレオ大阪
マスコットキャラクター
ジャンプちゃん

男女共同参画について
かわいく、わかりやすくまんがで解説!
ジャンプちゃんと一緒に、学んでみましょう!



作者:あい
一児のママのコミック作家。
Instagram(@yui_dondon)などで
漫画を発信中。



解説コラム

10月11日は、「国際ガールズ・デー」です。「国際ガールズ・デー」は、女の子が自分でやりたいことを選ぶことや、自分の力で生きていくのに大切な力をつけること、男性と対等に何かを決める立場につくことなど、「女の子の権利」の大切さを世界に呼びかける日です。

ちなみに、アメリカではたらく女性たちが、政治に参加する権利などをもとめて集まったり、行進をした日をきっかけに国連で決まった、「国際女性デー」(3月8日)とは別の日です。(詳しくは、連載まんがのep.1でも紹介しています!)

みなさん自身や、みなさんの周りで「女の子だから〇〇しなさい」や「女の子は〇〇しなくていい」などと聞いたことはありませんか。それは、正しいでしょうか。「国際ガールズ・デー」に、ぜひあらためて考えてみてくださいね。



女性版骨太の方針2025が決定

「女性版骨太の方針(女性活躍・男女共同参画の重点方針)」は、女性活躍や男女共同参画の取組を加速するために、毎年6月をめどに政府決定をしています。令和7(2025)年6月に、政府は「女性版骨太の方針2025」を決定しました。

『いつでも・どこにいても、誰もが自分らしく生きがいを持って生きられる社会』の実現に向けて、以下の5つを重点事項として取組を進めます。

- I 女性に選ばれ、女性が活躍できる地域づくり
- II 全ての人が希望に応じて働くことができる環境づくり
- III あらゆる分野の意思決定層における女性の参画拡大
- IV 個人の尊厳が守られ、安心・安全が確保される社会の実現
- V 女性活躍・男女共同参画の取組の一層の加速化

「女性版骨太の方針 2025」
(女性活躍・男女共同参画の重点方針 2025)



本文



説明資料

令和6年度 大阪市女性活躍リーディングカンパニー 市長表彰受賞 株式会社Dstyleホールディングス

女性の活躍に向けた社内の取組

大阪市では女性が活躍できる職場環境づくりを積極的に進めている企業等を「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」として認証しています。令和6年度に市長表彰中小規模企業部門の最優秀賞を受賞した株式会社Dstyleホールディングスでは、“ココロとカラダの美と健康と豊かさ”の真の調和を追求し続け、たくさんの出逢いを通じて社会のwell-beingを高めることを理念に事業を展開しています。女性活躍推進に向けた社内の取組について、お話を伺いました。



執行役員兼コーポレートサービス部 副部長 栗生雅文さん

▶ キャリア形成に対する意識醸成に向けた取組

各ライフステージにおいて自分のキャリアビジョンを描けるよう、社員にキャリアデザインを考えてもらいます。社内のロールモデルを可視化することで、自分のキャリアをイメージできるようにしています。さらに、年1回のキャリア面談を通じて社員の希望や目標を共有し、それに基づいたスキルアップや配置転換を提案しています。また、女性管理職候補にはキャリアアッププランを提示し、次世代リーダーの育成に取り組んでいます。

▶ 女性管理職比率向上の要因

成功している女性管理職の動画を社内イントラネットでいつでも視聴できるようにし、他の女性社員に「自分も管理職になれる」という意識を醸成しました。また、女性リーダーの育成のためにリーダーシップやマネジメントスキルなどの研修を開催しています。女性管理職比率目標47%を掲げ、目標達成に向けた進捗を社員全体に共有することで、組織としての一体感を醸成しています。次世代の育成として、係長、主任クラスについても女性管理職比率約50%の体制にしています。

▶ ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組と成果

育児や介護中の社員が働きやすい環境を整えるため、全社員を対象に在宅勤務制度を導入しています。育児休業や介護休業の取得促進に加え、短時間勤務制度の対象を子どもが小学校1年生の年度末までに拡大しました。当社の男性社員の育児休業取得率については100%に達しています。また、社内イベントやファミリーデーを通じて、社員の生活を尊重する職場文化を育んでいます。



▶ 今後の目標

令和9(2027)年までに管理職の女性割合を50%に引き上げ、グループ会社で女性社長誕生を目標にし、女性活躍のロールモデルを作っていきたいと考えています。女性活躍推進企業として、今後も情報発信を継続していきたいと思っています。

転載元:「大阪市女性活躍推進ポータルサイト
「きらめく女性の応援ひろば〜未来ヘレディGo!〜」より要約して転載

大阪市の女性活躍推進に関するポータルサイト「きらめく女性の応援ひろば〜未来ヘレディGo!〜」もぜひご覧ください!





チャレンジの先輩に聞く！

活動の始め方・続け方のヒント

生野区にある「いくのコーライズパーク(略称:いくのパーク)」は、旧大阪市立御幸森小学校の跡地に令和5(2023)年5月にオープンした多文化共生のまちづくり拠点。飲食店だけでなく、教育や福祉の機能も果たしています。いくのパークを管理運営するのは、「NPO法人IKUNO・多文化ふらっと」と「株式会社RETOWN」。お互いの持つ強み・ノウハウ・ネットワークを活かし、多文化共生と地域活性に取り組んでいます。今回は、生野の地でまちづくりを進めるNPO法人IKUNO・多文化ふらっとの代表理事の森本宮仁子(もりもとくにこ)さんにお話を伺いました。



多文化共生のまちづくり

少子高齢化の影響で、生野区でも小学校の統廃合が進められ、御幸森小学校も令和3(2021)年に廃校となりました。森本さんは、性別、年代、国籍、障がいの有無を問わず様々な人の居場所を作りたいと思い、食を通じたまちづくりに取り組む会社と協力して小学校跡地での多文化共生のまちづくりに参画されています。

生野区民の5人に1人は在日韓国・朝鮮人をはじめとした外国人です。現在では約80か国にルーツを持つ人々が暮らしており、その比率は全国自治体の中でもトップ。多国籍・多文化共生のまちづく

りが急務である中、いくのパークでは、子どもたちの学習支援やこども食堂、図書室などの運営、また、気軽に参加できるイベントの開催に取り組んでおられます。

「地域の人にも共感してもらい、さまざまに関わってもらいたいと考えていますが、その中に一步入ってもらうことが一番難しいと感じている」とのこと。「誰もが安心していられるまちの居場所ということを知ってもらい、少しずつでもその役割を果たしていきたい」と、日々試行錯誤しながら励んでおられます。

“課題”が次の活動と呼んでくる

森本さんがまちづくりに取り組みたいと思ったきっかけは、保育士としての経験にあるとのこと。生野区は在日韓国・朝鮮人が多いまちですが、森本さんが初めて受け持ったクラスも8割程が在日韓国・朝鮮人でした。子どもたちに自分のルーツに誇りを持ってほしい、また、すぐそばに自分と違うルーツの仲間がいることを知ってほしいという思いで保育に韓国の絵本や手遊びを取り入れることから始められました。お互いを知り、共に生きるための「民族保育」を現在も進めておられます。

保育を続けていると、少子化問題、様々な国籍やルーツの子どもたちが増えていることなど、その時代ならではの“課題”に出会います。多様な人が手を取り合って一緒に生きていこうと思える場所が必要との考えから、いくのパークを、しんどい、つらいと感じている人もほっとできる場所にしたいと活動しておられます。「今子どもたちやまちに必要なものは何だろう?」と考えると、次にすべき事柄が思い浮かび、「課題」が次の活動と呼んでくるとのこと。「大変だけれど、楽しくて辞められない」と笑顔で話してくださいました。

あなたはあなたのままでいい

森本さんに、これからの目標について尋ねました。「多様なルーツやセクシュアリティなど、人は一人ひとり違うことが当たり前で、違うということは豊かなこと。だからこそ、それが一緒に生きていく意味になる」と発信を続けていきたいとのこと。「あなたはあなたのままでいい」と認め合える地域にしたいと話す森本さんの姿は優しくなやかで、これからの生野区はますますあたたかい地域になっていくと感じるインタビューでした。

森本 宮仁子さん

(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 代表理事)

聖和大学(現:関西学院大学) 教育学部 幼児教育学科卒業

大阪市立大学大学院(現:大阪公立大学) 創造都市研究科 修士課程修了(都市政策修士)

社会福祉法人 聖和共働福祉会 大阪聖和保育園に保育士として就職。

主任保育士、施設長を経て現在、事務局長(業務執行理事)

関西学院短期大学、大阪人間科学大学等で非常勤講師も務める。

令和2(2020)年10月よりNPO法人 IKUNO・多文化ふらっと 代表理事



いくのパークにある図書室「ふくろうの森」。オープンスペースで、誰もがほっと安心できる場所です。

女性チャレンジ応援拠点 セミナー情報

詳しくはこちら



トーク&交流会

「ごきげんでいられる地域での場づくりのはじめ方～いくのパークの事例から～」

9/19(金)19:00～20:30

地域における居場所づくりの意義と醍醐味、活動の広げ方について話を伺います。紙面に乗り切らなかったお話を深掘りし、後半には交流会も実施します。

会場:クレオ大阪中央

講師:森本宮仁子さん(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 代表理事)

定員:30名(申込先着順) 対象:テーマに関心のある女性